〈2025 年度　共通テスト現代文　チェック項目〉

〈「正解答」であるための三要件〉

(1)　**構文の正しさ**（論理性）……設問箇所と設問要求とに対応した正しい**構文（主―述、接続関係）**
(2)　**内容の正しさ**（客観性）……本文の**重要語句（指示対象や KW）**中から必要なものを正しく適用
(3)　**表現の適切さ**（一般性）……比喩・具体例・特殊なニュアンスの「　」等を用いない**一般的表現**

◎　正解を確定する主要素　……**主語―述語（構文）、指示語・接続語（関係性）、キーワード！**
＊「キーワード」とは、本文中で筆者自身の表現によって強調・重視されている語句や文である

〈共通テスト特有の注意事項（現代文の基礎学力を踏まえたうえでの注意事項である）〉

①　時間は共通テストの重要課題。実用的文章（大問３）は最大 15 分として、評論・小説・古文・漢文の効率的な時間配分を意識的に行うこと。評論・小説の読解は、本文だけではなく、後の資料・対話なども含め、それぞれトータル約 10 分を堅持する。
②　リード文・注・設問文は、出題者からのメッセージであり、重要な情報が含まれているので精読する。とりわけ、本文の「主題」（～について）や設問の「課題」（～について）は最初に確認する。
③　図表（絵・写真・グラフ・図式等）・資料（短文・法令・ノート等）・対話などは、「本文」との関連を十分踏まえたうえで解答要素を探る。これらは本文の要旨やキーセンテンスに対して、しばしば具体例類（具体例・引用・比喩の類）と同様の関係性を持つ。なお、本文ではなく、特定の設問に付随する資料・文章などは、設問の要求や小問の問いを先に確認し、それに対応した要点・要素を求めるつもりで読む。
④　常に本文（資料も）の最終センテンスは要注意である。読解時と関連設問の解答時に精読すること。
⑤　対話では、教師・リーダーとなる生徒の発言に実質的な問い・課題やヒントがある。最終発言も要注意。対話中の空欄などでは、関係性（「空欄を含む一文」「指示語・接続語」「前後２発言ずつ」）がカギ。
⑥　設問は必ず読解後に前から順に解く。後の設問を解く際に、前の設問の解答過程や内容が参考になるケースが少なからずある。
⑦　選択肢の一つ一つをただ読み込んでいくのではなく、まず正解の必要条件の一つだけでも確定し、それを選択肢①中で特定、もしくは構文的な位置を確定する。そこから、他の選択肢②～⑤は横一線に該当箇所・内容を①にならって正誤判定していく。
⑧　積極的に正答要件で選択肢を絞り、二択程度で判定が難しくなったら、各述部を集中的に比較してみる。
⑨　選択肢の絞り込み・選別中にかなり微妙であると感じられる選択肢については、無理に正誤判定をしようとせず、「判断の留保」を適切に行い、次の選択肢に進む。選択肢の途中で長くは考え込まないこと。評論・小説の設問は 90 秒以内で解くのが原則である。
⑩　理由説明問題では、正解候補として残した選択肢について、「選択肢の述部　→　傍線部の述部」を確認し、理由としての妥当性を検証してみるとよい。
⑪　全選択肢の共通項（語句・構文）は正解の必須要素の明示である。共通項の必要性を考慮して活用する。
⑫　対比構造（ＡＸ←→ＢＹ）型の選択肢では、メインとサブの項のうち、メイン側の正答条件で先に選択肢を絞る。ただし、小説の「人物像の違いの説明」では、主人公の人物像の正誤判定を後に回すこと。
⑬　「適当でないものを選べ」という設問要求では、明らかな誤り（本文との矛盾）が正解要件である。微妙な選択肢は保留する。本文に明記されてはいないという程度では、「適当ではない」とは言えない。
⑭　連動型設問では、前問（ｉ）との関連性を踏まえて次問(ii)・(iii) を考えると、解きやすくなる。
⑮　実用的文章（大問３）は、トータル 15 分まで。個々の設問は平易だが、短時間で正解を判定する能力のテスト。「課題」・「設問要求」・「設問箇所と資料データと選択肢との 3 点の関係性」を考察する。

過去問題を用いて 75 分程度で解く反復練習をしておきましょう。

Copyright 2025 現代文 まなびの礎 All Rights Reserved.　作成者　中野芳樹